

行方地域における需要に応じた米づくりの推進

鹿行農林事務所行方地域農業改良普及センター

普通作経営体の所得向上を図るため、普及センターでは、潮来市・行方市、地元集荷業者やJA等関係機関と連携し、「コシヒカリ」より収益性の優れる加工用米「とよめき」や輸出用米「ハイブリッドとうごう3号」「あきたこまち」等の需要に応じた品種の作付けを推進しました。

「とよめき」や「ハイブリッドとうごう3号」は地域で栽培実績のない品種であったため、実証ほを設置し、地域適応性の把握、安定多収で省力・低コストな栽培技術の普及に取り組み、これらの品種の作付拡大と普通作経営体の収益向上に貢献しました。

加工用米・輸出用米の低コスト多収栽培技術の普及

加工用米「とよめき」や輸出用米「ハイブリッドとうごう3号」の低コスト多収栽培実現のために、施肥・病虫害防除・省力技術の実証試験を実施し、実証ほでの現地検討会を開催しました（写真1）。

普及センターは、実証結果に基づき、箱施用剤の防除効果と、密苗によるコスト削減効果を示して技術の普及を図りました。この結果、密苗は令和元年で130ha（H28年20ha）まで導入が拡大しました。



写真1 現地検討会の様子



写真2 とよめき生産者大会の様子

「とよめき生産者大会」や「多収コンテスト(T-1グランプリ)」の開催

JAと連携して「とよめき生産者大会」を開催し、加工用米の生産意欲を高める活動を支援しました（写真2）。

また、実証ほでの成果や多収コンテスト出品者の収量・栽培データを活用して「とよめき多収栽培のための栽培暦」を作成し、新規作付者の栽培指導に活用しました。

収益改善試算に基づく需要に応じた米産地の育成

加工用米・輸出米の所得は、一定の収量を確保して市の助成金を加えれば、コシヒカリの所得を上回ることを試算表にまとめ、生産者へ情報提供しました（表1）。

その結果、「とよめき」の作付面積は142ha（H28年1.2ha）、輸出用米は12.9ha（73t、4品種）（H30年2.2ha（15t、2品種））となりました。

表1 加工用米、輸出米と主食用米経営試算表

（単位：kg、円、hr/10a）（R1作成）

項目	主食用米 コシヒカリ	加工用米 とよめき	輸出米 あきたこまち	輸出米 とうごう3号
収量	480	600	480	630
粗収益	116,000	92,017	80,000	80,850
経営費	84,416	80,283	84,259	85,756
交付金等	0	44,600	46,000	46,000
収入	116,000	136,617	126,000	126,850
所得	31,584	56,334	41,741	41,094
主食用米 コシヒカリ との所得差	-	24,750	10,157	9,510